

焼岳の火山活動解説資料（平成 24 年 6 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 23 年 3 月 31 日に噴火警戒レベルの導入に伴い噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警戒事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1、図 2※）

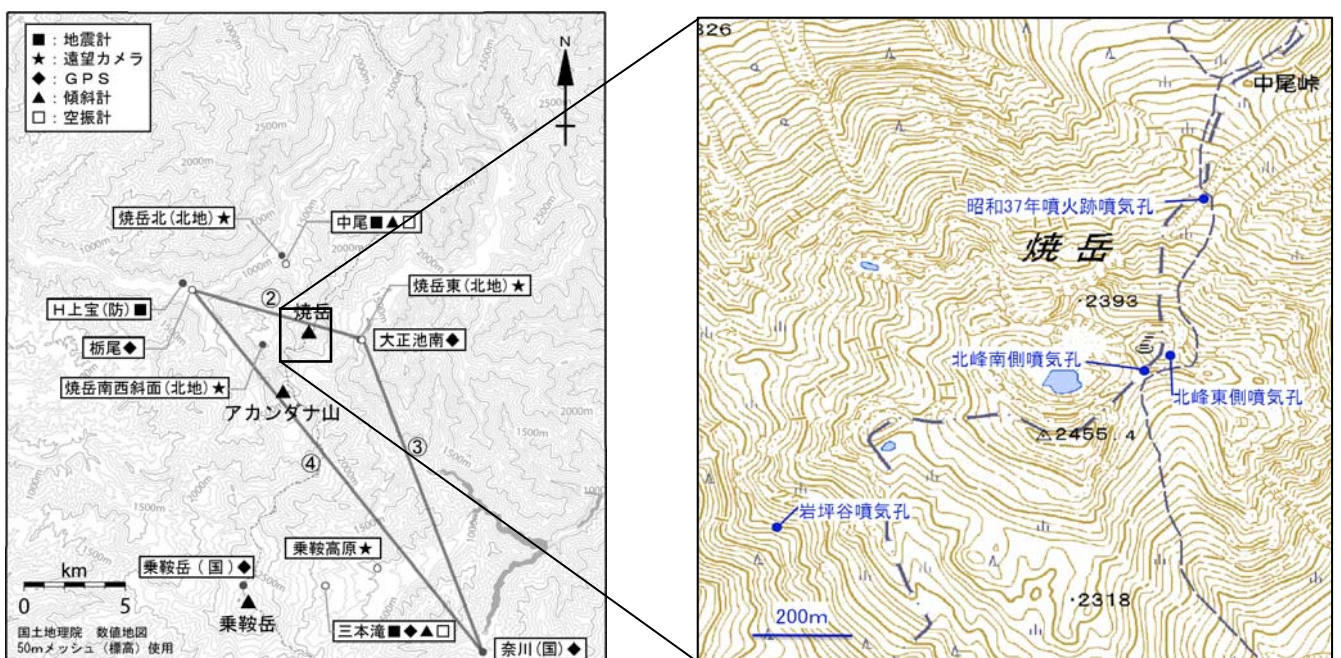
北陸地方整備局が設置している焼岳北カメラ（焼岳の北北西約 4 km）による遠望観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは 0～50m で経過しました。また、同局設置の焼岳南西斜面カメラ（焼岳の西北西約 2.5 km）による遠望観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは 10～100 m で経過しました。その他の地域で噴気は認められませんでした。

・ 地震活動（図 3－①、図 4※）

焼岳を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。
火山性微動や低周波地震は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図 3－②③④※）

GPS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(北地)：北陸地方整備局

図 1 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置
GPS 基線②～④は図 2 の②～④※に対応しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 7 月分）は平成 24 年 8 月 7 日に発表する予定です。

※この記号の資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び北陸地方整備局のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2 万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています (承認番号：平 23 情使、第 467 号)。



図 2※ 焼岳 山頂部及び南西斜面の状況（6 月 26 日）
（左図：焼岳北カメラ、右図：焼岳南西斜面カメラ）

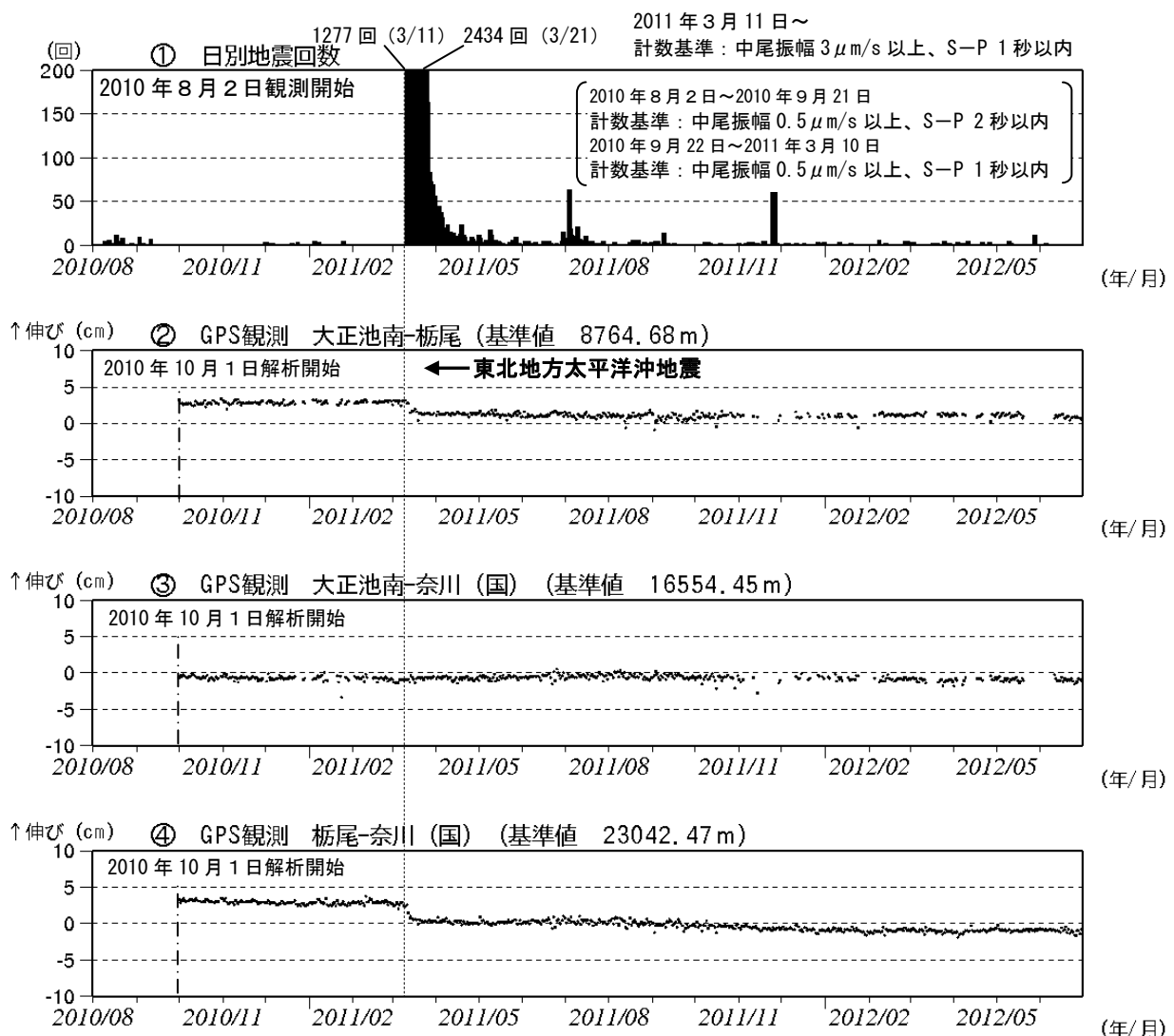


図 3 焼岳 火山活動経過図（2010年8月2日～2012年6月30日）

- ① 焼岳周辺の日別地震回数
2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。
- ②③④※ GPS連続観測による基線長変化 (国)：国土地理院
2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、データに飛びがみられます。②③④※ は図1の②③④に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

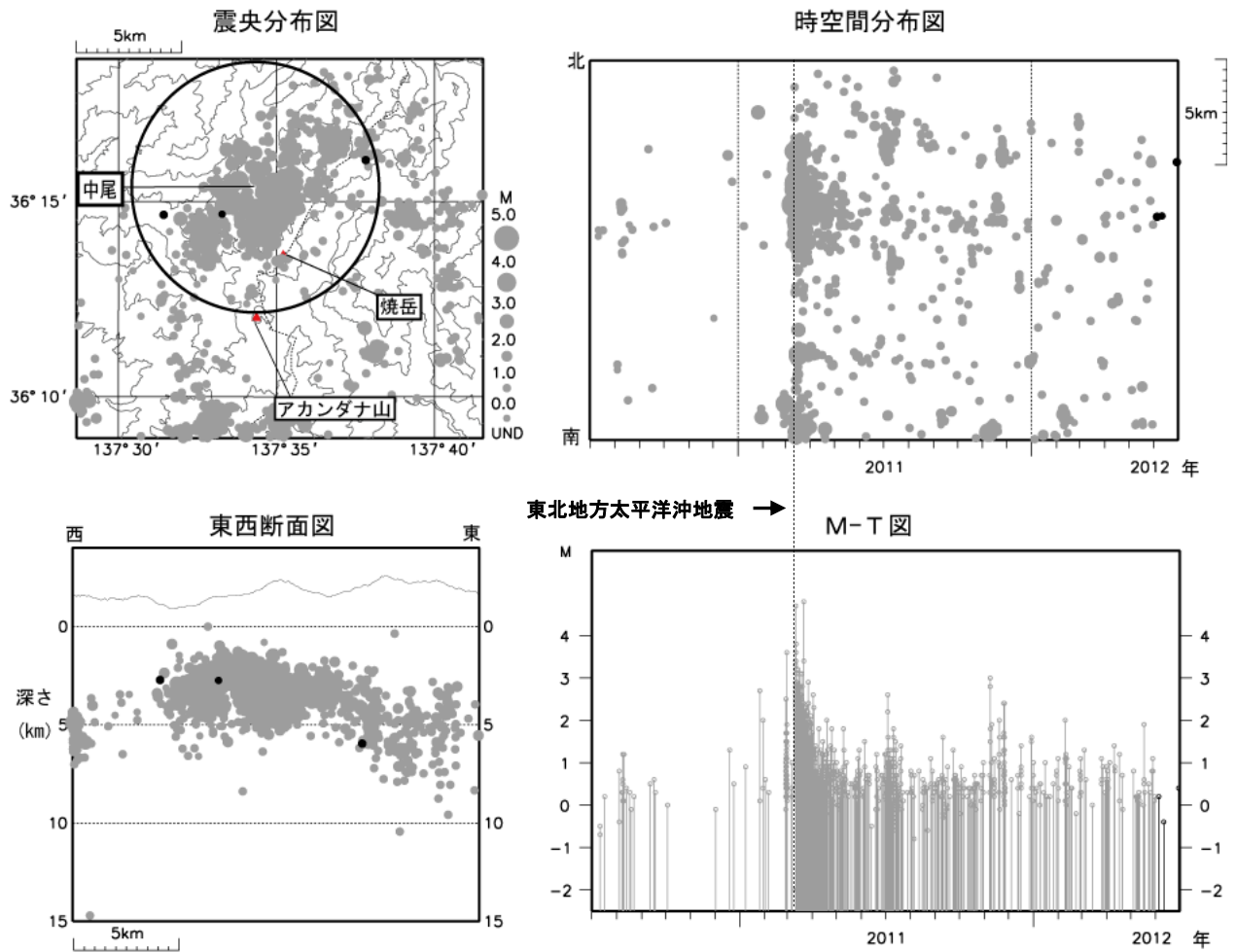


図 4※ 焼岳 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2010年7月1日～2012年6月30日)

● : 2010年7月1日～2012年5月31日

● : 2012年6月1日～6月30日

震央分布図中の円は図2-①の計数対象地震(中尾でS-P時間1秒以内)のおよその範囲を示します。

M(マグニチュード)は地震の規模を表します。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。